

# EPIC 4

Compact Precision  
Nearfield Studio  
Monitor

**日本語  
ユーザーガイド**



# 目次

ようこそ！ .....	3
Epic 4 の開発コンセプト .....	3
クイックリファレンス .....	4
開封 .....	4
セットアップの注意事項 .....	5
スパイクとシリコンパッド .....	5
理想的なリスニングのための高さ と 距離 .....	6
正しい時間軸を得るためのユニークな設計 .....	6
ステレオイメージ .....	6
底面の空間 .....	7
壁面への取り付け .....	7
音量レベル .....	8
微調整 .....	8
オーバーロード .....	9
スピーカーのエイジング（慣らし運転） .....	9
安全に関する注意事項 .....	9
技術仕様 .....	10

# ようこそ！

この度は、Epic 4 プロフェッショナル・コンパクト・ニアフィールド・モニター・スピーカーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本ガイドでは、Epic 4 から最高のパフォーマンスを引き出すために重要な安全上のヒントと提案をご紹介します。

## Epic 4 の開発コンセプト

ここ数年のトレンドとして、多くのプロデューサーがよりプライベートな環境で仕事をするようになり、生み出されるコンテンツの幅も多様化しています。マルチチャンネルのホームシアターシステム向けに制作されるコンテンツへの需要はかつてないレベルに達し、その制作には、5.1/7.1サラウンドや Dolby Atmos システムなど、より大きなサブウーファーと結合した多数の小型リファレンスモニターのシステムが求められています。

reProducer Audio のコンパクト・ニアフィールド・スタジオモニター Epic 4 は、こういった用途のいずれにも対応可能です。ホームスタジオ、即席スタジオ、出張エンジニア、プロデューサー、あるいはマルチチャンネルモニタリングシステムにおいて、まさに最適なソリューションのひとつとなるでしょう。

そしてもちろん、妥協なき製品作りを伝統とする reProducer Audio チームは、この Epic 4 でも可能な限り正確なサウンドパフォーマンスを可能にするため、すべての主要パーツの自社開発にこだわっています。

## 開封

開封の際は、Epic 4 のパッシブラジエーターに触れないよう細心の注意を払いながら、キャリングケースおよびファブリックバッグ（保護用の布袋）から取り出してください。

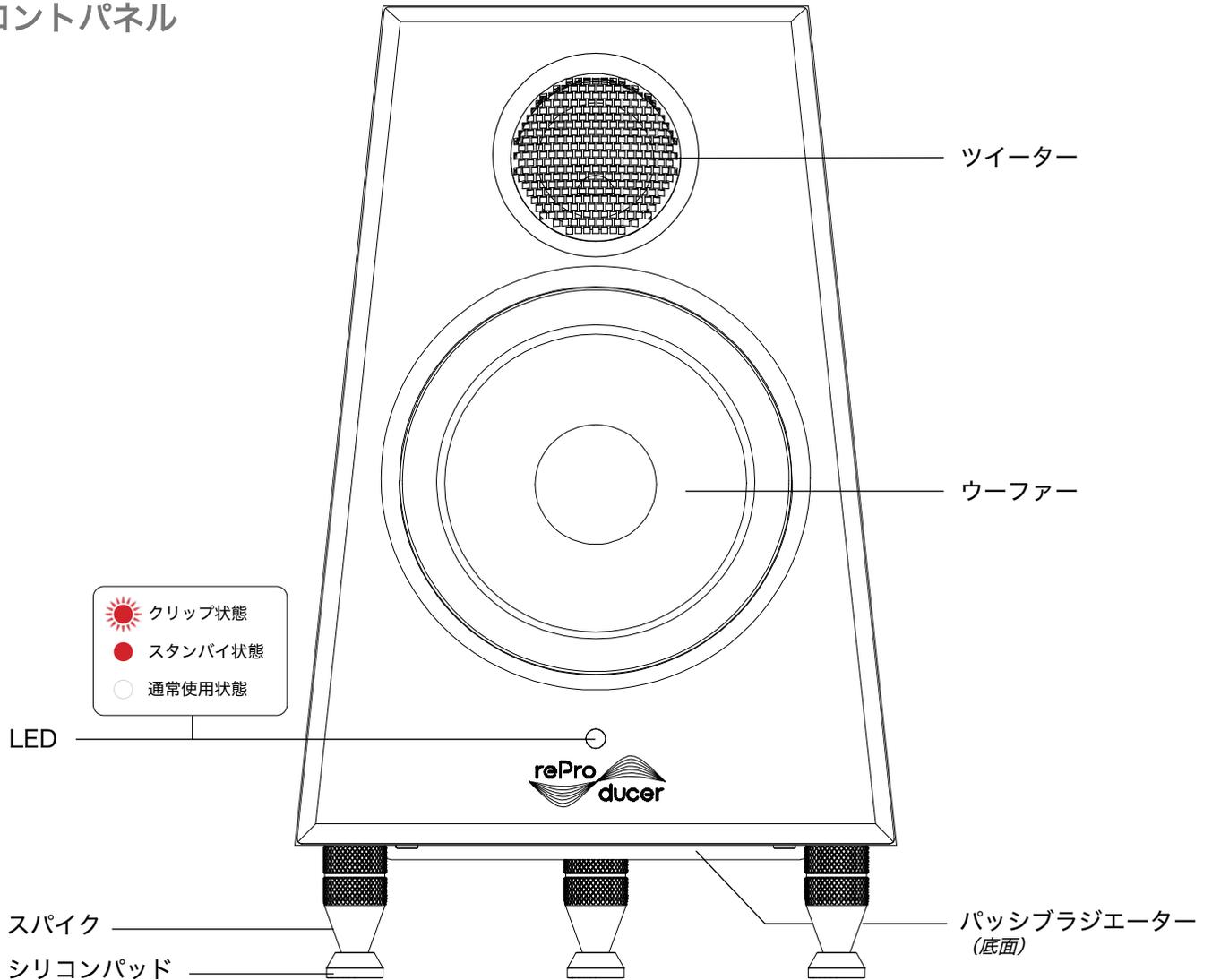
## あなたのスタジオをシェアしてください！

新しい Epic モニターを設置したら、タグを付け、お気に入りのスタジオ写真をぜひシェアしてください。

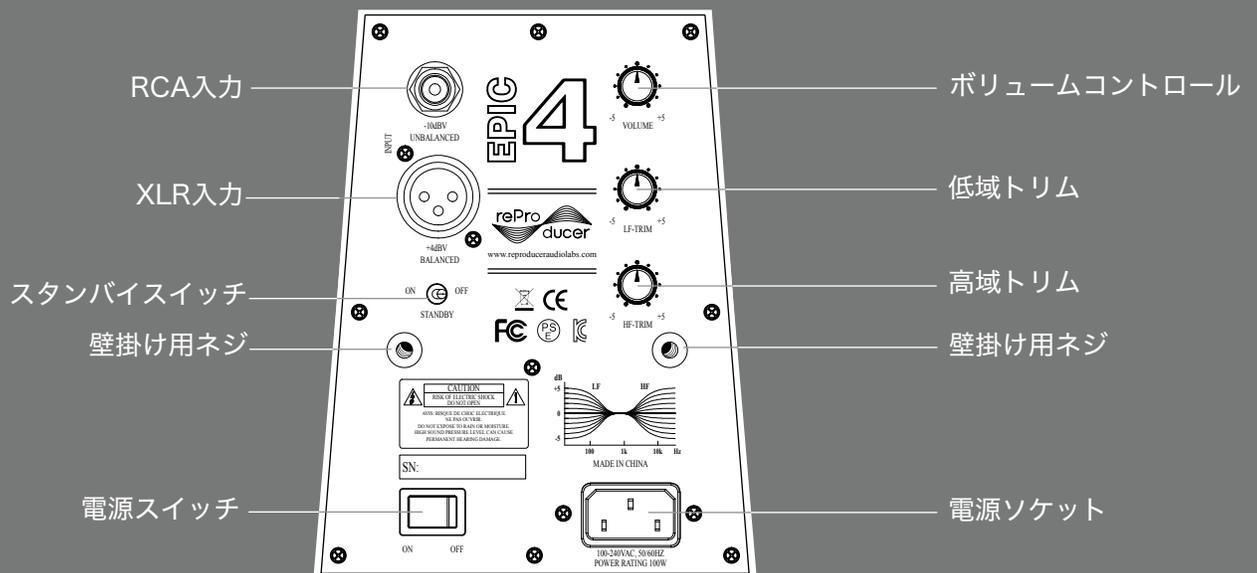


# Epic 4 クイックリファレンス

## フロントパネル



## リアパネル





Epic 4 の設置や取り外しの際は、パッシブラジエーターに触れたり、損傷を与えないよう十分ご注意ください。

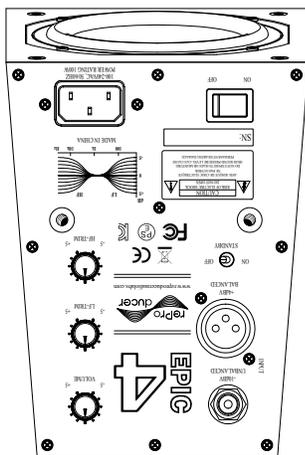
## セットアップの推奨事項

ベストなサウンドを実現するためには、スピーカーと周囲の音響環境との相互作用だけでなく、スピーカーとリスナーとの位置関係も考慮することが必要です。

また、スピーカーと耳の間に障害物（モニター画面や、大きな葉の植物など、サウンドを遮ったりするもの）がないかを確認しましょう。

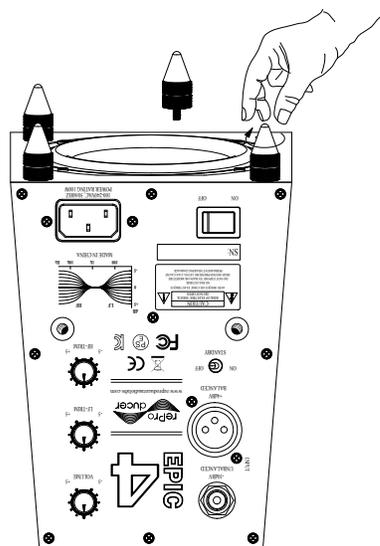
## スパイクとシリコンパッド

Epic 4 を使用するにあたり、振動を緩和し、大音量での再生時にスピーカーが動いてしまうことを防ぐため、付属のシリコンパッドを用いた設置をお勧めします。ただし、設置場所や、設置面の材質に合わせるようにしてください。



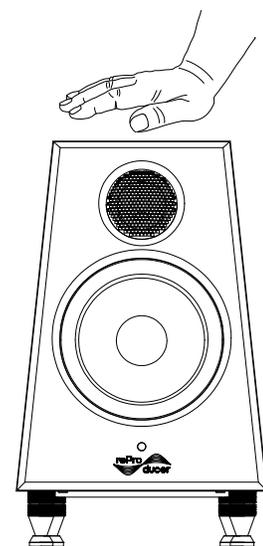
### ステップ 1

平らな場所で、スピーカーを逆さまに置いてください。



### ステップ 2

スパイクを時計回りに回し込み、キャビネットに取り付けます。

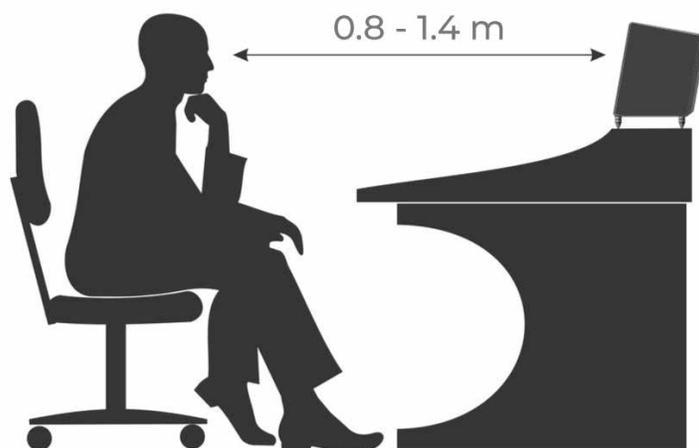


### ステップ 3

スパイクをシリコンパッドにセットし、上からキャビネットを押してスパイクをパッドに固定します。

## 理想的なリスニングのための高さと距離

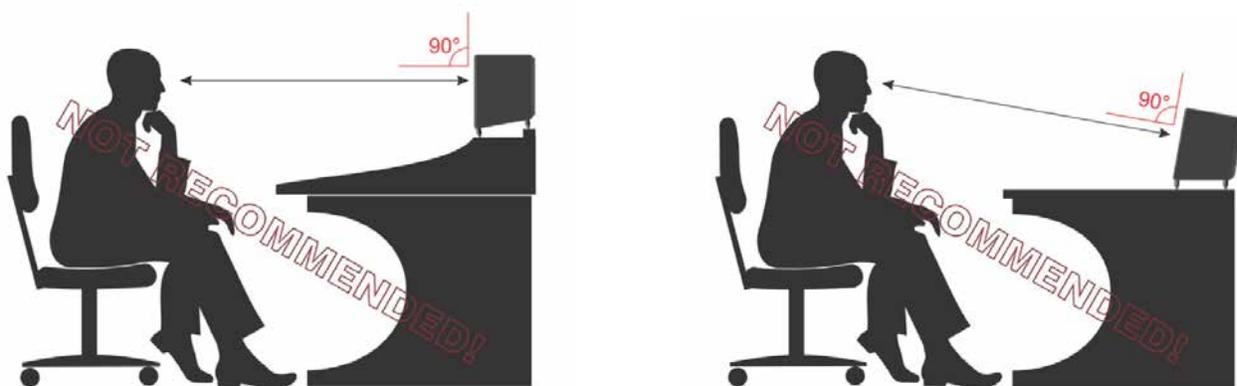
Epic 4 の適切なリスニングポイントは、0.8~1.4mとなります。耳の高さがツイーターとウーファーの間にくるよう設置しましょう。



## 正しい時間軸を得るためのユニークな設計

Epic 4 のフロントパネルは、若干の角度がつけられた設計になっています。これはツイーターとウーファーのアライメントを取るための設計であるため、スピーカー面に対して90度の角度がベストではないという点にご注意ください。

以下の図例は間違ったポジションを示しています。

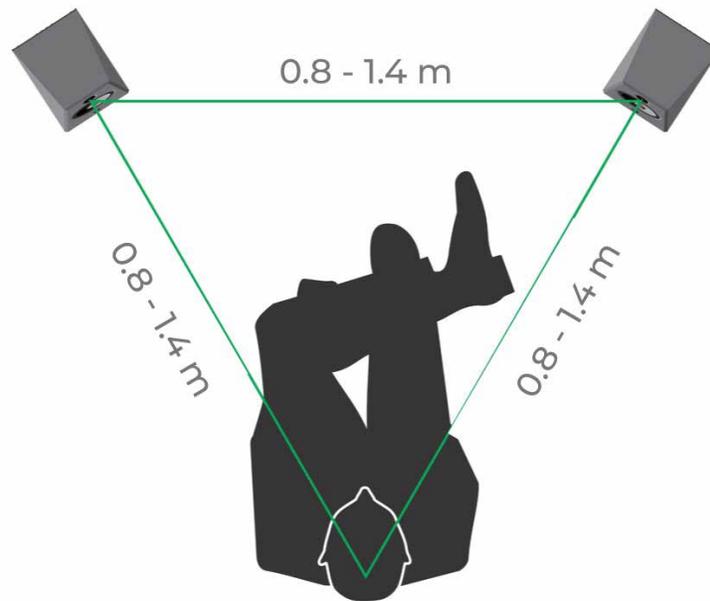


## ステレオイメージ

正確なステレオイメージを得るため、左右2つのスピーカーとリスニングポイントを正三角形になるよう設置しましょう。

スピーカー両側や背面からの距離をできるだけ同じになるよう心掛けてください。もちろん、壁素材も同じであることが好ましいです。また、モニターサウンドを濁らせる要因となりうる不要な反射音を防ぐため、スピーカーと壁との距離をなるべく取ることをお勧めします。

一般的に言われる「正三角形」は実用的な推奨値となりますが、リスニングルームの空間構成や（主に壁、天井、床からの）反射音の量と質によっては、リスニングポジションを正三角形の少し内側とするのが望ましいかもしれません。最適なリスニングポジションを見つける簡単な方法は、モノラル信号を両方のスピーカーで再生し、センターでしっかりソースが確認できるようになるまでゆっくりと微調整することです。



## 底面の空間

Epic 4 のサウンドにおいては、正面軸からだけでなく、底面部のパッシブラジエーターから拡散される低域成分も非常に重要なものとなります。設置時には付属のスパイクを使い、デスクやスタンドとの空間を確保するようにしましょう。スパイクの装着は本体底面の穴に回し込むだけで簡単に済みますが、パッシブラジエーターを傷つけないよう、十分ご注意ください。

## 壁面への取り付け

Epic 4 のリアパネルには、壁掛け用のマウントを取り付けるネジ穴が用意されています。



レベルを過度に上げないで下さい。  
聴力に永久的な損傷を与える可能性があります。

## 音量レベル

人間の聴覚の精度は音圧レベルと密接な関係にあります。大き過ぎる場合はその精度が落ちるだけでなく、聴覚に危害を及ぼすことにもご注意ください。Epic 5を使用するにあたっては、リスニングポイントで83~86dB SPLが推奨の音圧レベルになります。これを超えないようにして下さい。

マスタリングエンジニアのBob Katzは、ピンクノイズを用い、スピーカーごとに83dB SPL (C-weighted、スローメーター設定)、ステレオでは86dB SPLになるように調整することを推奨しています。設定後、作業をしながらさらにレベルを上げる必要性を感じた場合は休憩を取るようにしましょう。

## 微調整

通常、リスニング環境は音質に大きな影響を与えます。つまり、部屋の中でのスピーカーの位置や空間の特性によっては、補正が必要になる場合があります。

Epic 4のリアパネルには、チューニングのための2つのノブが用意されています。各トリムは、 $\pm 5$ dBの範囲内を1dB刻みでカット/ブーストが行えるもので、HF-Trimは2.5 kHz以上、LF-Trimは250 Hz以下で機能します。

フラットでしっかりした表面の明るい響きの部屋では、高域を落ち着かせる必要があるかもしれません。HF-Trimを操作して、高域を減衰させて様子を見ます。暗く、ブーミーな環境、あるいはリスニングポジションとの距離が推奨よりも長い場合には、高域成分を比例して増やしてみましよう。

LF-Trimも同様に機能します。通常、キャビネットと壁との間の距離に応じて低域の調整が必要になります。Epic 4の元々のチューニングは、ノブを真ん中の位置にして、フリー (4Pi) の無響環境で決定されたものです。壁に近いところでは、低域ブーストがかかった2Piのアレンジに変わります。LF-Trimの操作によって、この効果を軽減することができます — もちろん、優れた位相特性を維持しながら、です！

## オーバーロード

フロントパネルのLEDが赤く点灯する時は、レベルがクリッピングポイントに近づいていることを示しています。過大入力機器の破損にも繋がるため、このような場合はソース側の出力音量を下げてください。かなりの量の低域成分を含むオーディオ素材を扱う場合、一時的な赤の点滅であればある程度は許容されます。それでも赤く点灯する場合はEpic 4の高精度ゲインアッテネーターで調整を行きましょう。

## スピーカーのエイジング（慣らし運転）

新品のEpic 4は、72時間程度をかけ慣らししていくことをお勧めします。一般に「エイジング」と呼ばれるこの慣らし運転の間は、さまざまなサウンドや楽曲を適度な音量で再生することをお勧めします。この作業は、スピーカーのコーンにおけるゴム製部分の柔軟性を確保するために行います。

## 安全に関する注意事項



- ・ 本機でモニターを行う際は、常に適切な音量調整を心掛けてください。設定を誤ると、聴覚に永久的なダメージを与える音圧レベルを発生させます。
- ・ コンプレッション効果を避けるため、動的な制限は設けていません。歪みに気付いた場合は、すぐにレベルを下げてください。
- ・ スピーカーを熱、直射日光、湿気にさらさないでください。キャビネット表面の清掃には、軽く湿らせた布だけをお使いください。
- ・ キャビネットは絶対に開けないでください。内部にはユーザーが修理できる部品はなく、感電する危険があります。

# 技術仕様

周波数特性 (ツイーター)	+/- 3 dB、80 Hz ~ 30 kHz
周波数特性 (ウーファー)	+/-10 dB、65 Hz ~ 40 kHz
アンプ出力	ウーファー 50W RMS、ツイーター 50W RMS
アンプ仕様	クラスD、ダイナミックレンジ 115dB、 ハイカレント、ハイダンピング、100kHz以上の特性、超低ノイズ
最大音圧 (SPL)	106 dB (C) SPL、ペアで1mの距離にて計測
電源	100~240V、50/60Hz
最大消費電力	93 W
消費電力 (入力信号のないアイドル時)	1.1 W
消費電力 (スタンバイモード時)	0.46 W
ウーファー	4インチ (自社デザイン)
ツイーター	1インチ (自社デザイン)
クロスオーバー周波数	3 kHz、24 dB/oct
入力インピーダンス: バランス (XLR)	12 k $\Omega$
入力インピーダンス: アンバランス (RCA)	3.3 k $\Omega$
入力感度: バランス (XLR)	+ 4 dBu
入力感度: アンバランス (RCA)	-10 dBV
ルーム補正EQ: 高域	$\pm$ 5 dB、1 dB 単位 @ 2.5kHz
ルーム補正EQ: 低域	$\pm$ 5 dB、1 dB 単位 @ 250 Hz
スタンバイモード	背面スイッチにてオン/オフの切り替えが可能
寸法 (スパイク非装着時)	210(H)x160(W)x175(D) mm
寸法 (スパイク装着時)	240(H)x160(W)x175(D) mm
重量 (1本)	2.95 kg



reProducer Audio Labs designs reliable, sonically uncompromising, and visually stunning studio monitors that allow audio engineers to make sound decisions quickly in professional working environments and project studios alike.